1. 事故発生日時 令和7年4月9日（水） 10時50分頃
2. 事故発生場所 和歌山市
3. 工事内容 工事名：河川整備工事
工期：令和7年2月26日～令和7年8月24日
4. 受注者 県内建設業者
5. 災害分類 労働災害（工事関係者1名負傷）

6. 事故発生状況

七瀬川右岸において、現場代理人、作業員2名の計3名で、コンクリートブロック積基礎工の均し型枠設置作業を行っていたところ、掘削が完了した法面（以下「掘削面」という）が崩壊した。

掘削面に浸食防止対策として敷鉄板を立てかけていたため、掘削面の崩壊に伴い敷鉄板が川側に倒れ、作業を行っていた元請作業員2名のうち1名が下敷きになり、骨盤を骨折（全治約3ヶ月）した。（添付資料①、②参照）

7. 事故原因

受注者は掘削面の状況から地山が脆弱であると認識していたが、安衛則第534条に基づき、地山を安全な勾配とする又は土止め支保工等を設ける措置を講じなければならなかったにも関わらず、当該措置を講じなかった。

また、敷鉄板を立てかけていたため、掘削面に異常がないかの点検をしないまま、作業員に均し型枠設置作業をさせていた。

なお、被災者は敷鉄板の下敷きになっており、敷鉄板を掘削面に立てかけていたことが被害を拡大させた可能性がある。

8. 所管の警察署及び労働基準監督署等の意見

○和歌山警察署は事件性がないと判断した。

○和歌山労働基準監督署は4月18日に是正勧告書及び指導票を交付。

・是正勧告書【安衛法第21条第2項（安衛則第534条）違反】

地山の崩壊又は土石の落下により労働者に危険を及ぼすおそれがあるときは、当該危険を防止するため、地山を安全な勾配とし、落下のおそれのある土石を取り除き、又は、擁壁、土止め支保工等を設ける措置を講じなければならなかったにもかかわらず、当該措置を講じていなかったこと。

・指導票

掘削作業を行なった箇所について、雨や地震等、自然現象に影響を受けやすく、結果、重篤な労働災害につながりやすくなっています。

つきましては、貴事業場におかれましては、事前に、当該掘削した箇所の土砂に異常がないかを点検する体制を確立させてください。

9. 本件における改善対策

- ・掘削面に立てかけていた敷鉄板を撤去し、地山の崩壊に伴い緩みの生じた地盤を除去するとともに地山の安全な勾配（掘削勾配 1:1.0）を確保し、地山の崩壊による危険を防止した。（添付資料②参照）
- ・作業主任者が作業前に掘削面の異常がないかを点検することとした。

10. 類似の工事における再発防止の観点からの周知事項

○地山の崩壊による危険防止の措置

・事業者は、労働者が墜落するおそれのある場所、土砂等が崩壊するおそれのある場所等に係る危険を防止するため必要な措置を講じなければならない。

（安衛法第21条第2項）

・ 地山の崩壊又は土石の落下により労働者に危険を及ぼすおそれがあるときは、当該危険を防止するため、地山を安全な勾配とし、落下のおそれのある土砂を取り除き、又は、擁壁、土止め支保工等を設ける措置を講じなければならない。

(安衛則第 534 条)

○安全管理活動

日々の建設作業において、各種の事故を未然に防止するために次に示す方法等により、安全管理活動を推進すること。

- ① 事前打合せ、着手前打合せ、安全工程打合せ
 - ② 安全朝礼（全体的指示伝達事項等）
 - ③ 安全ミーティング（個別作業の具体的指示、調整）
 - ④ 安全点検
 - ⑤ 安全訓練等の実施
 - ⑥ 工事関係者における連携の強化
- (1) 設計，施工計画，施工の連携の強化を図ること。
- (2) 各種作業において設定した設計条件あるいは施工計画における条件と変化する現場の条件を常に対比し、不都合がある場合は、適宜相互確認のうえ対処すること。

(土木工事安全施工技術指針第 1 章総則第 4 節工事現場管理 7. 安全管理活動)